



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/29 (月)	トン	+ 30,000	+ 30,000	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(40年) 年度末諸払い			
3/30 (火)	トン	+ 30,000	+ 30,000	年度末諸払い			日：有効求人倍率・完全失業率(2月) 米：消費者信頼感指数(3月) I-O圏：景況感指数(3月) I-O圏：消費者信頼感指数(3月)
3/31 (水)	▲ 800	+ 31,800	+ 31,000	年度末諸払い			日：鉱工業生産(2月) 米：ADP雇用統計(3月) I-O圏：CPI(3月)
4/1 (木)	トン	▲ 25,000	▲ 25,000	国債発行・償還(2年)			日：日銀短観(1Q) 米：新規失業保険申請件数(27日終了週) 米：ISM製造業景況指数(3月) 米：建設支出(2月) I-O圏：製造業PMI(3月)
4/2 (金)	▲ 1,000	▲ 28,000	▲ 29,000	普通交付税交付金 税・保険揚げ 国債発行(10年)			米：雇用統計(3月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初22日に国債の大量償還等があり、先週末対比8兆600億円増加の496兆6,300億円から始まった。その後は国庫短期証券買入オペ・国債買入オペや新型コロナ対応金融支援特別オペ等の影響により、同残高は過去最高を更新し、511兆1,500億円を越えた。無担保コールON物加重平均金利は、引き続き地銀業態を中心としたビッドサイドの調達意欲が強く、堅調な地合が継続した。なお同加重平均金利は週を通して、 $\Delta 0.015\% \sim \Delta 0.014\%$ で推移した。また、ターム物は月内エンドのデイズ物・1W物を中心に $\Delta 0.010\% \sim \Delta 0.005\%$ の水準で出が見られた。

来週の主な予定は、国内では、30日に有効求人倍率・完全失業率(2月)、31日に鉱工業生産(2月)、1日に短観(1Q)の公表、海外では、31日にユーロ圏CPI(3月)、2日に米雇用統計(3月)の公表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	$\Delta 0.087 \sim 0.001$
1M	$\Delta 0.030 \sim 0.030$
2M	$\Delta 0.010 \sim 0.040$
3M	$0.000 \sim 0.070$
6M	$0.000 \sim 0.130$

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	$\Delta 0.050 \sim 0.000$
TDB 3M	$\Delta 0.130 \sim \Delta 0.080$
CP 3M	$\Delta 0.070 \sim 0.000$

### <レポ>

。足許GC取引は、週初 $\Delta 0.09\%$ 台の出合いから始まり、週を通して $\Delta 0.10\% \sim \Delta 0.09\%$ の水準で推移した。短国3Mの入札があった26日の取引では、 $\Delta 0.08\%$ 近辺までレートは上昇した。SC取引は2年409~422回債、5年135~146回債、10年331~361回債、20年164~175回債、30年59~69回債、40年9~13回債などに引合いが多く見られた。

### <TDB>

24日の6M982回債(9/27償還)の入札は、最高落札利回り $\Delta 0.1098\%$ (前回債 $\Delta 0.1030\%$ )、平均落札利回り $\Delta 0.1117\%$ (同 $\Delta 0.1070\%$ )となった。26日の3M983回債(7/5償還)の入札は、最高落札利回り $\Delta 0.0930\%$ (同 $\Delta 0.0986\%$ )、平均落札利回り $\Delta 0.0990\%$ (同 $\Delta 0.1009\%$ )となった。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が $\Delta 0.105\% \sim \Delta 0.103\%$ のレンジ、6M物が $\Delta 0.115\%$ 近辺、1Y物が $\Delta 0.132\% \sim \Delta 0.128\%$ のレンジで取引された。

### <CP>

今週の入札発行総額は約5,200億円で、週間償還額(約1兆8,400億円)に対し大幅に下回った。発行市場は、期越え物の発行が中心となっており、投資家が強いビッドを入れていた。発行残高は先週末の2兆2,451億円から、25日時点で2兆1,347億円に減少した。26日に、CP等買入オペが事前予定6,000億円から減額され4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート $\Delta 0.064\%$ ・平均落札レート $\Delta 0.044\%$ と前回(按分レート $\Delta 0.045\%$ ・平均落札レート $\Delta 0.027\%$ )比で低下した。発行レートは、 $\Delta 0.07\% \sim 0\%$ 近辺での出合いであった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還(2兆8,500億円)を含み、約2兆9,000億円程度となっている。発行市場は、年度末日では一般事業法人による有利子負債の削減が見られ、大幅償還となるだろう。期末明け、一般事業法人の発行再開が見込まれるものの、本格化は4月中旬以降を予想する。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから $0\%$ 近辺の出合いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄では、今回同様強いマイナスレートでの出合いを予想する。